

愛媛県立 松山西高 同窓会報

Way

平成11年7月20日発行
発行所
松山西高等学校同窓会
松山市久万ノ台
印刷所
株式会社 松栄印刷所

新しい時代を拓く心を育てるために



校長

渡辺 福徳

校庭の緑が美しい季節になって参りました。同窓会の皆様にはますますご清栄のことと拝察いたします。

同窓会の皆様には、日頃から母校の発展のために多方面にわたり格別のご理解ご支援を賜り感謝申し上げます。

この度、卓越した経営手腕で輝かしい業績を残された水関秀雄校長がご勇退になり、不肖、私が後任として本校でお世話になることになりました。同窓会の皆様のお力添えを得て、本校の更なる飛躍を

目指して微力ながら努力していく覚悟でありますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

さて、文部省が行いました平成十年度の学校基本調査によりますと、増加傾向にありました「いじめ問題」は若干減少したものの、「不登校」や「高校生の中途退学者」は過去最悪といった状況をきたしております。また、「薬物乱用」とか「性の逸脱行動」といった現代的な新たな問題行動も急増しており注目され

卒業生数

10,531 名

平成11年4月1日現在

ています。

こうした状況の中で、中央教育審議会の最終答申が出され、「新しい時代を拓く心を育てるために」という副題が示すように、家庭、地域など社会全体へ訴えかけるユニークなものとなっております。特に、「もう一度家庭のあり方を見直そう」ということで大人の心の教育を重視している点は重要なポイントと考えます。

今日、教育界は戦後教育の一大転換期を迎えておりますが、方向を誤ることなく将来を見据えた取り組みが大切であると考えております。

今後とも、皆様の一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

燃える心



四代校長

(昭和六十年四月―昭和六十三年三月)

末廣 昭二

昭和六十年年度から六十二年度の三年間県立高校での教員生活の最後を西高で勤めさせていただきました。すべての面で恵まれて幸せでした。

私は退職してから十二年経ちますから当時の生徒の皆さんの今の年齢は三十代になったことでしょう。

社会を変えていく力は二十代、三十代の若者によってなされるとよく言われています。人間の有り様を求めた相田みつを氏の好評の著書の中に「一生燃焼 一生感動 一生不悟」の言葉があります。何事も行為の内容が完璧でなくとも燃焼・感動する心を持つて行動すれば良い結果が得られると思います。

現在、皆さんは住みよい社会づくりのためにそのような生き方を通して存分に活動されていることと思います。

西高では燃焼・感動する心を育む教育がありました。緑多い広い校地の中での集団走で「西高ががんばっていきましょい」の大きく響く掛け声とともに皆さんの熱気が校長室に伝わってきたことを覚えております。

私はテレビでプロ野球の試合をよく視ますが、選手の出来、不出来は選手全員の動きの中で選手それぞれの精神力に大きく左右されるようです。燃える心が欠けると本人は勿論全体的にもまずい試合になります。

現在の日本は長期の不況で先の見通しが立ちにくい状況下にありますが、西高で培った燃える心で力強い活躍を期待しております。

西高開校前夜

— 兵頭・麻生・高橋先生 —



旧職員

(昭和四十九年四月—昭和五十六年三月)

石丸 博

「困難は山ほどあると思う。しかし、あとの楽しみも随分あると思う。ご苦労をかけるが、県民の期待に応えて、日本一の新設校にして欲しい。」昭和四十九年三月四日、「愛媛県立松山西高等学校開校準備委員を命ずる」の辞令を渡された後での教育長さんからの激励の言葉であった。隣りに座っていた浅黒い顔をした男のコメカミがびくりと動いた。あとの自己紹介で麻生耕三先生と知った。奇麗な眼をしていた。この先生となら一緒にやれるぞとフアイトが湧いて来た。先生は常に正道を行く本物の教師であった。教えられた。

合わせ直後に行った久万の台の敷地の半分近くは泥の池、仮設校舎にするプレハブの資材が片隅に置かれた状態で、そこに佇んだ我々はまさに荒野の七人の心境であった。その時、「これはやり甲斐がありますね」と不敵な笑みを浮かべたのが高橋俊三先生。当時三十八歳、一期生の現在より若い年令、凄い教師であった。

準備を、夜はそれぞれの学校の執務をと、時間はいくらあっても足りなかった。そんな中で「先は長いんですよ。本筋を押さえながら身体をこわさんようにやりましょう」と、まじめ役になって下さったのが兵頭清志先生。そう言い乍ら先生は、新任教員の受け入れ、PTAの組織づくり、入学式の準備など手抜かりなくやって下さった。温かい教師であった。

新しいスタッフを迎え入れる前夜、七人で一杯飲んだ。「日本一の学校づくりをしましょう」と握手し合った時の充実感・期待感は今も掌に感觸として残っている。あれから二十五年、兵頭先生、麻生先生、高橋先生と、お三人とも故人になられた。あまりにも早過ぎるご他界であり、愛媛の教育界にとっても惜しまれる。心からご冥福をお祈りしたい。そして、あの時手を握り合った小野先生、加藤勝先生、永井泰先生とともに、三人の先生方の分まで、西高と西高同窓生の成長を見守りたいと思う。

心に残る一期生



旧職員

(昭和四十九年四月—昭和五十四年三月)

中岡 満義

光陰は矢の如く、松山西高校誕生以来、四半世紀を迎えました。

同窓会の皆さん、お元気で各界にますます活躍のこととお喜び申し上げます。

顧みると、昭和四十九年、新設の松山西高校に赴任した私は、丁度一期生の皆さんの今の年齢と同じ四十才でした。

五年間、草創期の諸先生や生徒の皆さんに大変お世話になり、大洲高校を経て内子高校で定年を迎えました。今のところ元気で、済美高校に勤める傍ら、好きな油絵を楽しみながら六年目の夏を過ごしております。

松山西高校の草創期につきましては、私以上に活躍ご苦労の多かった諸先輩にお任せして、私は美術科の思い出を綴ってみたいと思います。

備品もなんとか揃った広い美術教室で、本格的な学習指導ができたのは、二期生が入学した二年目からでした。一期生も二年生になり、美術系の大学に進みたい生徒も少し見えてきました。部活動も活発になってきましたが、それは進学を目的としたデッサン中心のシビアな活動であったことは否めません。

放課後になると教室に暗幕を引き、蛍光灯の明りでデッサンがはじまります。教室は静かです。紙の上を走る木炭の音が聞こえます。準備室に來られる先生も、声をおさえてヒソヒソ話をされるような雰囲気でした。五時を過ぎる頃、私は教室を一巡して一言一言アドバイスをして帰ります。朝は他の教科もゼロ時間があるように、二、三人は早く来てデッサンをしていまし

た。

一期生が三年生になり、美術の大学進学希望者は六名いました。週五時間の美術の授業によって実技の力をつけることになりました。一週間に二時間続きの授業が二回、一時間が一回で、二時間連続の授業では、休憩時間の十分間が私の指導の時間で、前後の百分はデッサンに集中しました。二学期後半になると学習の成果も見えはじめ、一枚一枚、描く度によくなくなってきました。

大学受験は四名が国立、二名が私立大学を受けることになり、国立大学は四名が揃って一期校の高知大学特設美術を受けました。結果は全員合格、この年の西高の高知大学の合格者は全員で五名でした。関の声をあげ生徒と共に涙したことは、今も鮮明に残る思い出の一コマです。合格者の中の一名は、東京学芸大学も合格して入学しました。

私立大学を受験したT君は、難関の多摩美術大学デザイン科に現役で合格、大学院を卒業しました。Oさんも同じ多摩美術大学油絵科に合格

しました。

彼等は現在、学校の中堅教員として、また美術界、デザイン界の第一線で活躍をしていますが、お父さんから「まだ独身です」とか、卒業以来、姓の変っていない年賀状などをいただく、胸が痛むこともあります。

以上、一期生の思い出の一つを綴りました。

まだまだ多くの、心に残る思い出もありますが、今回はこれにて。

皆さんの活躍を祈り上げます。

西高頑張ってくださいましょい

同窓会総会案内

日時 8月14日(土)
6時30分開会
場所 南海放送本町会館7F
キャッスルホール

西高同窓会総会に思う



同窓会理事

山本章二

毎年、八月の土曜日に同窓会総会を開催していますが、五年くらい前から役員として開催の手伝いを始めました。役員と言っても、私は少しひょうきんな性格なので、すぐに余興担当を命じられました。私としても他の難しい役は苦手なので喜んで引き受けただけですが、当初は余興といっても、ビンゴゲームが主で、ステージ上でできる簡単なゲームをいくつかする程度

でした。しかし、ビンゴゲームが始まるとみんなカードの穴開けに夢中になり、隣同士の会話は進まないし、酒も進まない。最初のビンゴ者が出るまで時間がかかり、結局は当たらなかつた人が多数出てくるといったように、案外、酒の席での余興としては、おもしろくなく、時間が勿体ないと感じてきました。そこで、翌年、ビンゴゲームの代わりに空くじなしの抽選会を取り入れました。これは、ビンゴゲームのデメリットをカバーでき、大変好評でした。二、三年続けましたが、もう一つ心に残る何かが足りないと感じ、それなら試しに私が地元で継承している獅子舞を披露してみようと思ひ、昨年実施しました。畑寺の獅子舞は西高とは縁があり、かつて、ダンス部が畑寺公民館まで習

いで来て文化祭で披露したり、二十周年記念大会でも披露した(私が獅子を使いました)経緯があります。また、昨年は在校生のプラスバンドによる演奏や、総会受付時に現在の西高の状況等のビデオ上映も合わせて実施しました。どちらも参加者に好評で、今年度も続けて実施してみようかと思っています。こうして参加者に喜んでもらうと、私たち役員一同思案しているのですが、毎年、参加者が少なく、寂しい思いをしております。この記事を読んでいる皆さん、是非一度参加して、豪華景品を引き当て、楽しい一時をみんなで見せてみませんか。ご協力よろしくお願ひします。

